今冬の需給見通しについて

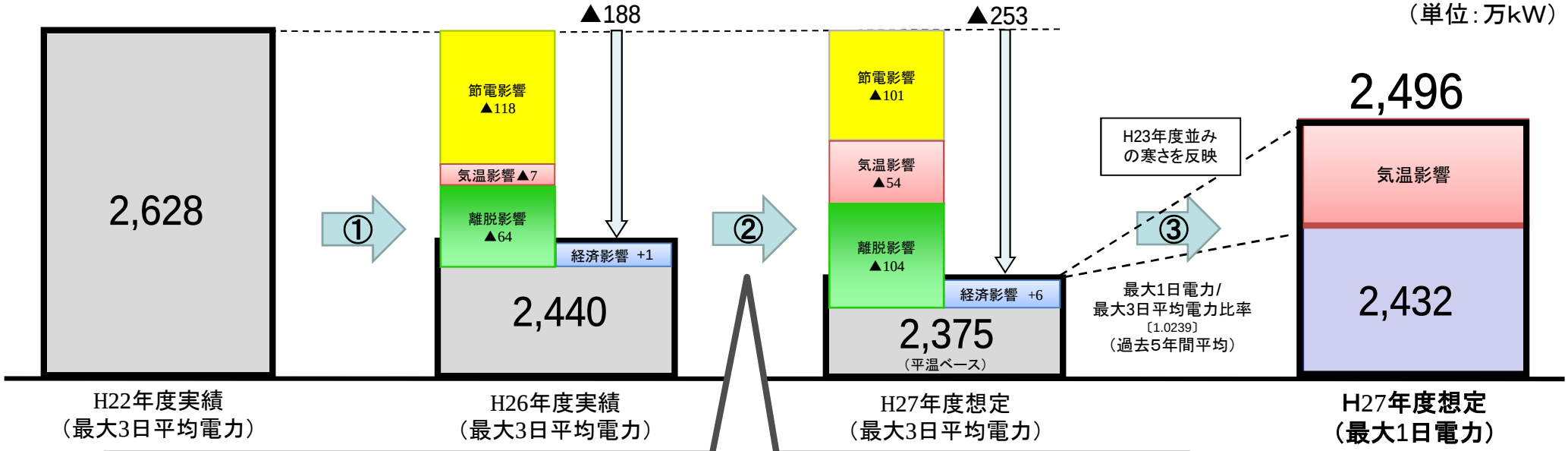
平成27年10月29日
関西電力株式会社

資料1-1

今冬の最大電力想定の考え方について

【最大電力の見通し】

（単位：万kW）



【②-1:節電影響の見通し】

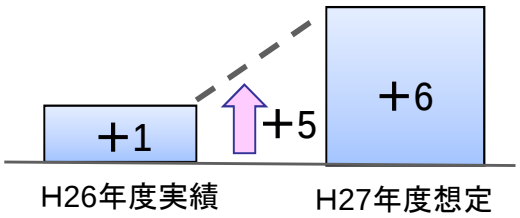
＜節電アンケート結果（H27.8実施）＞

（万kW）

	H26年度 節電実績 (a)	節電アンケート結果		H27年度 節電影響 (a)×(b)
		節電継続率 (b)	サンプル数	
大口	▲53	86%	550 件	▲46
小口	▲33	85%	363 件	▲28
家庭	▲32	85%	1,071 件	▲27
計	▲118	86%	1,984 件	▲101

【②-2:経済影響の見通し】

（万kW）



（参考）
冬季最大3日平均
電力の平均気温

H23年度	1.9℃
基準気温	3.6℃

①：H26年度冬季における節電影響、気温影響、離脱影響、経済影響を、H22年度冬季実績と比較して算出しています。
②-1：今冬の節電影響は、至近のアンケート結果に基づいた大口、小口、家庭別の節電継続率により、▲101万kWと想定しています。
②-2：今冬の経済影響は、今後の景気拡大を織込み、H26年度冬季と比べ＋5万kWとなる、＋6万kWと想定しています。
③：H23年度並みの厳寒を反映した今冬の最大1日電力は、最大1日電力/最大3日平均電力比率（過去5年間平均）を用いて、2,496万kWと想定しています。

今冬の需給見通し（原子力の再起動がない場合）

（単位：万kW）

	①H26冬想定（2月）	②H27冬想定（2月）	差分（②－①）	備考
供給力－需要（予備率）	77 (3.0%)	83 (3.3%)		（凡例）☆ 計上の考え方 ○ 昨冬との差分
需要	2,535	2,496	▲39	☆H23年度並み厳寒を想定
供給力（合計）	2,612	2,579	▲33	
原子力	0	0	0	☆稼働していない原子力は、再起動がない場合として計上しない
水力	165	167	+2	☆天候によらず安定的な供給力として下位5日の平均から算定
火力	1,663	1,668	＋6	○定期点検 +31 ・今冬計上（昨冬定検）：海南2号,海南4号 計 +105 ・今冬定検：南港1号,相生1号,相生3号,舞鶴1号 計 ▲75 ○姫二圧力プレート設置等による減 ▲30 ○火力増出力等 +6
揚水	253	276	+23	☆想定需要とベース供給力から算定
新エネ	0	0	0	☆冬季は点灯ピークを想定しており、太陽光は供給力に見込めない
他社・融通	532	468	▲63	
他社	472	473	+1	
水力・揚水	54	62	＋8	
火力	417	411	▲7	
新エネ	0	0	0	☆冬季は点灯ピークを想定しており、太陽光は供給力に見込めない
融通等	60	▲5	▲65	○応援融通の減 ▲46[参考：応援融通受電量 H26：46、H27：0] ○新電力への送電増等 ▲19

※四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

○原子力の再起動がない場合、火力の震災特例の活用による定検繰り延べ等を行う必要があり、厳しい需給状況となりますが、最低限必要な予備率3%は確保できる見通しです。

需要側の主な取組み（昨冬実績）

【主にご家庭のお客さま】

	内容	昨冬（H26）
PR	ホームページ、フェイスブック、ツイッター	需給見通し、節電・省エネのお願い、 日々・週間の需給予想等を掲載
	ポスター	約5百部
	検針票［裏面利用］	約1，200万軒
需給ひっ迫の お知らせメール	需給ひっ迫時等に電子メールを配信	約72万件
見える化の推進	「はぴeみる電（電気ご使用量のお知らせ照会サービス」 の加入慫慂	約112．8万件（3月末累計）
「はぴeみる電」 需要抑制の取組み	需給ひっ迫時等に節電のお願い・顧客特典を電子メール で配信し、外出を促す	来店者数　延べ約1．6万人 （5回試行実施　アンケート回答者ベース）

【法人のお客さま】

瞬時調整特約	当社の電源脱落事故等、需給ひっ迫時に、即時の大幅な 負荷抑制に対し電気料金を割引	23件　約34万kW
通告ネガワット 特約等	当社からの通告により、翌日・翌週に実施される大幅な 負荷抑制に対し電気料金を割引	166件　約10万kW （発動なし）
BEMS アグリゲーター との協業	BEMSアグリゲーターとの協業によるピーク抑制	12事業者と契約締結 約370件 朝：約0．1万kW 夕：約0．2万kW （5回試行実施）

○今冬も予備率3%は確保できる見通しですが、需要の想定に定着した節電を見込んでいることから、引き続き、お客さまに着実な節電・省エネをお願いさせていただく予定です。

ま と め

〇H27年度の最大電力は、H23年度並みの厳寒を前提として、定着した節電を101万kWと見込むことで2，496万kWと想定しました。

〇供給力は、原子力の再起動がない場合、火力の震災特例の活用による定検繰り延べ等を行う必要があり、厳しい需給状況となりますが、2，579万kWを確保することで、予備率は3．3%となり、最低限必要となる予備率3%は確保できる見通しです。

〇一方、設備トラブル等により、需給状況が厳しくなる可能性もあります。当社としては、引き続き、電力の安定供給のために、火力・水力発電設備の異常兆候の早期発見や早期復旧に最大限取り組んでまいります。

〇国の電力需給検証小委員会での検証を含め、国および自治体の皆さまとしっかり連携を図り、対応してまいりたいと考えております。何卒、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

今冬の中西6社における予備力

「需給検証小委員会」資料より作成

参考

［平成27年度（2月）冬の需給状況］ （万kW）

平成２７年度	中部	関西	北陸	中国	四国	九州	中西６社
供給力	2,499	2,579	557	1,170	528	1,586	8,919
最大電力需要	2,356	2,496	529	1,067	497	1,515	8,460
供給-需要	143	83	28	103	31	71	459
（予備率）	6.1%	3.3%	5.3%	9.6%	6.2%	4.7%	5.4%

［平成26年度（2月）冬の需給状況］ （万kW）

平成２６年度	中部	関西	北陸	中国	四国	九州	中西６社
供給力	2,530	2,612	559	1,135	527	1,562	8,925
最大電力需要	2,393	2,535	521	1,048	500	1,516	8,513
供給-需要	137	77	38	87	27	46	412
（予備率）	5.7%	3.0%	7.2%	8.3%	5.5%	3.0%	4.8%

［平成25年度（2月）冬の需給状況］ （万kW）

平成25年度	中部	関西	北陸	中国	四国	九州	中西6社
供給力	2,502	2,655	550	1,141	542	1,584	8,974
最大電力需要	2,355	2,576	519	1,052	506	1,536	8,544
供給－需要	147	79	31	89	36	48	430
（予備率）	6.3%	3.0%	6.0%	8.5%	7.2%	3.1%	5.0%

［平成24年度（2月）冬の需給状況］ （万kW）

平成24年度	中部	関西	北陸	中国	四国	九州	中西6社
供給力	2,524	2,642	562	1,181	557	1,584	9,050
最大電力需要	2,367	2,537	519	1,096	510	1,537	8,566
供給－需要	157	105	43	85	47	47	484
（予備率）	6.6%	4.1%	8.3%	7.7%	9.1%	3.1%	5.7%